

令和7年度全国学力・学習状況調査 和寒町の状況と今後の改善方策

(小学校数:1校、児童数:16人)
(中学校数:1校、生徒数:24人)

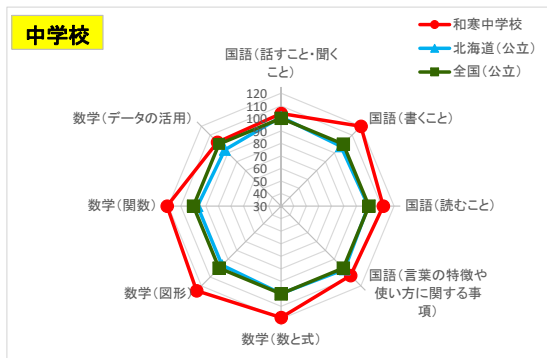
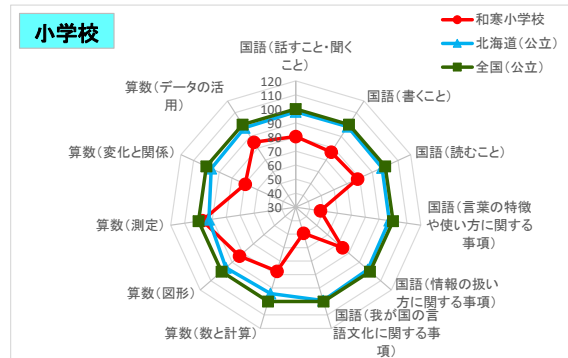
令和7年4月、和寒小学校・和寒中学校において、令和7年度全国学力・学習状況調査が実施されました。この調査は、全国の小学6年生と中学3年生を対象に、学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証・改善するとともに、学校における教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的としています。児童生徒への調査の内容は、教科に関する調査(本年度は国語・算数・数学・理科)及び生活習慣や学習環境等に関する質問調査の2つです。なお、文部科学省の「令和7年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」には、「本調査の目的や調査結果は学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面である」との見解が示されています。

【教科に関する調査の状況】

本町の小中学校の教科に関する調査の結果は、右表のとおりとなりました。教科ごとの正答率を全国平均と比べると、小学校の平均正答率は全ての教科において全国平均を下回り、中学校の平均正答率(国語・数学)・平均IRTスコア(理科)は全ての教科で全国平均をやや上回りました。なお、中学校理科については、IRTスコアの平均値で表しています。

*「IRTスコア」～統計理論「IRT(項目反応理論)」に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表したものです

平均正答率	小学校	中学校
国 語	47	61
算数・数学	46	56
理 科	38	532



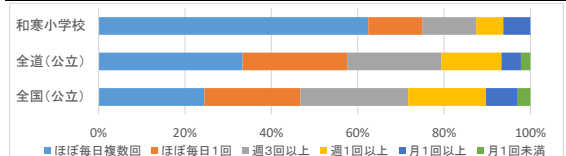
* 教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

【質問調査の状況】

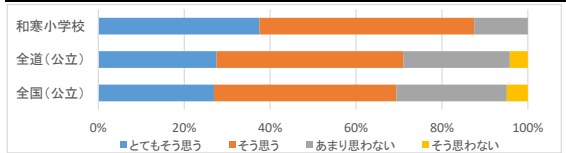
質問調査で、全国平均と比べて小中学校ともに肯定的な回答が多かった質問としては、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」、「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事は除く)」、「前の学年までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」、「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどをつかってまとめる)ことができると思いますか」などがありました。また、否定的な回答が多かった質問としては、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間を含む)」、「学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか(オンラインの授業の場合も含む)」、「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか」などがありました。

小学校

【児童】5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度活用しましたか



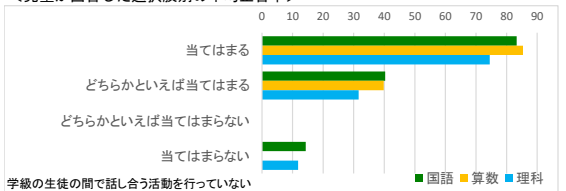
【児童】あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか



※ 上記以外で、ICT機器の活用に関連した質問の中で肯定的な回答が多かった質問項目
①わからないことをすぐに調べる、②画像・動画・音声の活用、③考えを伝える

【児童】学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか(クロス集計)

＜児童が回答した選択肢別の平均正答率＞



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

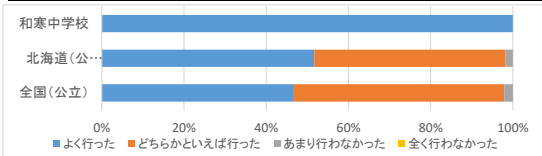
授業において、1人1台端末等のICT機器を積極的に活用したことにより、情報を整理する、わからないことを調べる、画像・動画・音声などで理解を深める、自分の考えを伝えるなど、様々な学習活動をより効果的に進めることができるようになったと考えられます。また、授業において話し合い活動を適切に取り入れたことにより、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができたと実感した児童が多く見られたと考えられます。さらに、自分が話し合い活動に積極的に取り組んだと考えている児童は、全ての教科において平均正答率が高い傾向にあると捉えることができます。

【和寒町の学力向上策】

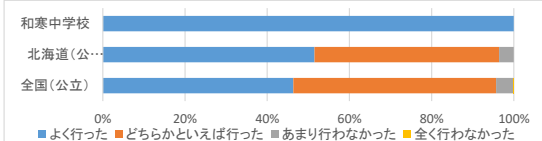
- 未定着部分の学び直しと、授業改善や学習サポートなどの指導体制・指導方法の工夫による基礎学力の向上
- ICT機器を活用した効率的・効果的な学習活動の推進による児童生徒の資質能力の向上
- 学校と家庭が連携した家庭学習の一層の充実

中学校

【学校】国語の授業において、前年度までに、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるような指導を行いましたか



【学校】数学の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか

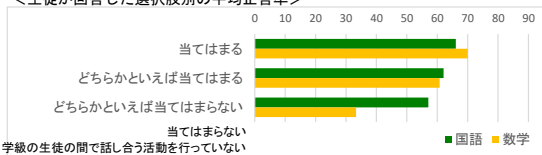


※ 評価の観点「思考・判断・表現」の平均正答率



【生徒】学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか(クロス集計)

＜生徒が回答した選択肢別の平均正答率＞



中学校

国語や数学の授業において、根拠を明確にしたり、筋道を立てて考えたりするなど、思考力を高める活動を取り入れたことにより、国語と数学の「思考・判断・表現」の観点で、正答率が全道及び全国平均を大きく上回ったと考えられます。また、小学校と同様に、授業において話し合い活動を適切に取り入れたことにより、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができたと実感した生徒が多く見られたと考えられます。さらに、自分が話し合い活動に積極的に取り組んだと考えている生徒は、全ての教科において平均正答率が高い傾向にあると捉えることができます。